

医療的ケア児の保育所保育に関する研究

保育士を対象としたアンケート調査から
 ○小林保子 河合高鋭
 （鎌倉女子大学） （鶴見大学）
 KEY WORDS: 医療的ケア児 保育所 保育士

【目的】

平成 28 年 5 月改定の児童福祉法において、「医療的ケア児」が初めて取り上げられた。厚生労働省、内閣府、文部科学省連名で「医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進について」の通知を受け、各自治体において保育保障に向けた整備が進んでいる。一方で、受入れ側である保育所保育士はどのように捉えているのか。本研究では、現職保育士を対象に、医療的ケアや医療的ケア児に関する認知状況や保育所受入れについて調査し、実態と課題を明らかにする。

【方法】

対象：関東首都圏にある株式会社系列の 53 の保育所に勤務する保育士 544 名。

方法：アンケート調査書（無記名）を園に郵送にて人数分一括配布・回収した。

調査内容：主な項目は以下に示す。

- ① 「医療的ケア」およびケアの種類に関する認知状況
- ② 医療的ケア児の保育所保育（受け入れ）について
- ③ 保育士に必要な知識・スキル
- ④ 医療的ケア児等の近年の保育保障に向けた動向、他

分析方法：統計処理には SPSS を用いた。

*本研究は、鎌倉女子大学倫理委員会の承認を受け実施した。

【結果】

1. 調査の回収・対象者について

356 件（回収率 65.6%）回収し、無効回答を除く 305 件を有効回答とした。対象者の保育経験年数は、5 年以下が 140 名で全体の 45.9%を占め、7 割が 10 年以下であった。

2. 医療的ケア児・医療的ケアに関する理解の状況

「医療的ケア」という言葉を聞いたことが「ある」は 179 名で、全体の 58.7%であった。「TV、新聞」で聞いたが 109 名で最も多く、次いで「保育士養成校」が 32 名であった。聞いたことがあり、言葉の意味も「よく知っている/概ね知っている」と回答したのは、179 名中 114 名（63.7%）で、全 305 名中では、37.4%であった。医療的ケア児と関わった経験があるのは、305 名中 42 名（13.8%）と少なかった。

「保育士が知っている医療的ケアの種類」を図 1 に示した。「痰の吸引」が 235 名（77.0%）、「人工呼吸器」が 191 名（62.6%）と多く、「経鼻経管栄養」や「胃ろう」全体の 3～4 割であった。約 9 割が何等かのケアは知っていた。

3. 医療的ケア児・重症児の保育所保育（受入れ）

図 2「保育所保育（受入れ）について」を見ると、「良いことではない」が 60.0%で、「良い」18.0%、「わからない」が 22.0%であった。医療的ケアの意味を知っている群と知らない群で考えの違いに有意差はなかった。図 3「医療的ケア児のいるクラスの担当を希望するか」では、「わからない」が 50.5%と最も多く、「はい」は 23.0%であった。

医療的ケア児の保育において保育士に必要なスキルは、「ケアに関する知識」（95.1%）「ケアの仕方」（92.1%）「障害に関する知識」（92.8%）の順で多く、「看護師と連携する力」（80.7%）は 6 番目であった。ケアの選択肢 11 全てに対し、約 8 割以上が必要と回答した。「インクルーシブ保育」という言葉は、「聞いたことがない」が 154 名と半

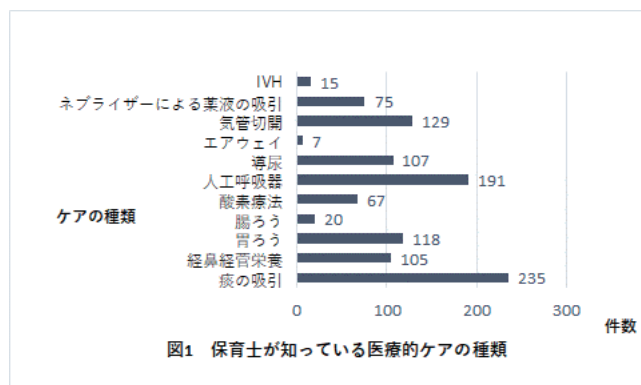


図1 保育士が知っている医療的ケアの種類

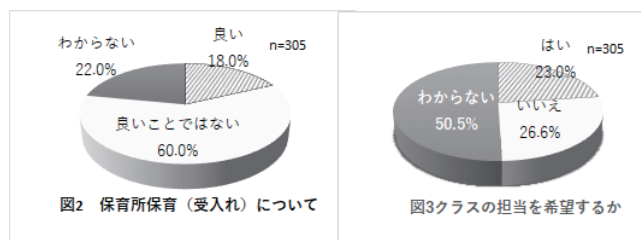


図2 保育所保育（受入れ）について

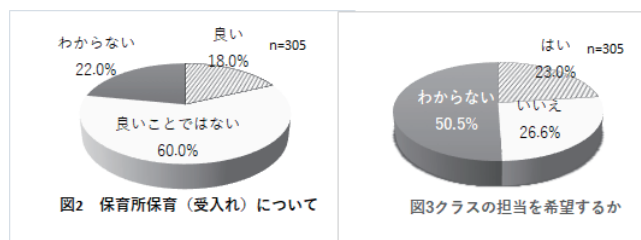


図3 クラスの担当を希望するか

数を占めた。その他、「居宅訪問型保育」や「医療的ケア児の保育保障に向けた国の動き」を「知っている」とする回答もそれぞれ全体の 24.6%21.6%にとどまった。

【考察】

保育所に勤務する保育士においては、ケアの存在は概ね知っている状況が確認されたが、「医療的ケア」や「医療的ケア児」といった新しい概念（用語）についての認知は全体の 6 割程度で、さらに保育保障等の社会のニーズや国の動きについては 2～3 割程度と受入れ側の当事者である保育士に情報が届いていない実態が明らかとなった。また医療的ケア児の保育所受入れについて、良いとする意見は 2 割程度で、実際にクラスを担当したいか「わからない」が 7 割を占めたことを踏まえると、勤務する保育所に入所希望があった場合、現場に相当の不安や戸惑いが生じる可能性があることは、容易に推察された。

今回、医療的ケアの意味を知っている群と知らない群で受入れに対する考えに有意な差はなかった。また受入れに際し、対象者のほとんどが多くの知識やスキルが必要と捉えている実態があった。医療的ケア児の保育には専門的な知識やスキルが求められるとする認識と自身が実際に役割を担えるかという不安が先立ち、実際の受入れやクラスを担当するイメージが持ちにくい状況にあると考えられた。

受入れ側の当事者である保育者の「知らない」、「わかっていない」ことで生じる受入れへの不安・戸惑いを少しでも改善するためには、実際の子どもの姿や社会の動向に触れ、理解する機会を持ち、保育をイメージできるような学びを保育士養成課程において提供していくことが急務と考える。

（文献）

厚生労働省、内閣府、文部科学省通知「医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進について」平成 28 年 6 月 他、当日発表資料に記載する（Kobayashi Yasuko, Kawai Takatoshi）